

## 概要

- 基盤整備後の中核となる経営体育成に向け、地域内での話し合いにより法人の設立と経営計画作成支援を行った。
- 農業法人等の経営力向上を目指し、対象の要望に応じた専門家の派遣やスマート技術の導入支援、各種研修会の開催や参加誘導を行った。
- 経営の継承に向け、経営状況聞き取りと継承計画作成の支援を行った。また、一法人については法人連携による経営継承に向けた支援を行った。

## 具体的な成果

- 農業法人の設立に貢献した。  
R3年度41件→R6年度44件
- 経営継承の計画策定・見直しについて、R4～6年の3年間で延べ22件支援
- 農業法人へトヨタ式改善の取組支援を行い、ネギの生産性が向上。  
(R4→R6)
  - ①販売額 3,700万円 → 6,800万円
  - ②単収 3t/10a → 1.9t/10a
  - ③A品率 38% → 50%
  - ④日処理量 1.6t → 1.8t



ネギ調製作業現場の様子

## 普及指導員の活動

- |        |   |
|--------|---|
| 令和4～6年 | ■ 法人の設立支援<br>■ 農業法人の経営力強化支援や合理化、省力化に取り組む経営体を支援        |
| 令和4～5年 | ■ 法人への事業継承の支援   |
| 令和5～6年 | ■ ばれいしょの導入支援<br>■ 税理士等の専門家を派遣した相談・指導活動                |
| 令和5年   | ■ 法人の設立支援(1件)、個人経営体の法人化支援(2件)<br>■ 末広ファームへトヨタ式改善の取組支援 |

## 普及指導員だからできたこと

- ・ 地域の農業者と密接につながる普及指導職員だからこそ、農業法人の設立や継承等の相談に対して適切に対応することができ、書類作成の支援や集落座談会などを通して農業法人の育成に貢献することができた。
- ・ 現場を観察して改善活動を行ったことにより、生産性向上に寄与したとともに、改善活動を経営体と共に取り組んだことで、社員の意識改革につながり、意欲向上にも貢献した。

## 地域農業の担い手となる農業法人の育成

活動期間：令和4年度～継続

### 1. 取組の背景

鹿角地域管内における農業者数の減少は顕著であり、効率的な営農を行うため、基盤整備事業に意欲を見せる地域も見られるなか、中核となる経営体の育成が必要である。

集落型農業法人が設立され10年以上を経過し地域農業の重要な担い手となっているが、水稻主体で経営規模が比較的小さい組織が多い。集落型農業法人の組織内部を見ると、経営陣の高齢化が進むなか経営承継に向けた準備不足は否めず、後継者候補すら見つからない組織もある。一方、近年は大規模個人農業者による法人化志向が広がりを見せ、法人化件数は微増傾向にある。

今後の担い手不足への対応と、地域農業をリードする競争力の高い経営体の育成が課題である。集落型農業法人をはじめ既存の農業法人及び新規農業法人が「継続事業体」となるよう支援を行った。

### 2. 活動内容（詳細）

- 1) 基盤整備後の中核となる経営体育成に向け、市町、JA、土地改良区、農村整備課等と検討会を実施。また、高収益作物を導入した経営計画の作成支援を行い、定款や事業計画などの作成を支援した。
- 2) 農業法人等の経営力向上を目指し、対象の要望に応じた税理士、中小企業診断士等の専門家の派遣を行った。また、アグリノートの活用や、ドローンによるソバ播種等のスマート技術の導入支援、各種研修会の開催や参加誘導を行った。
- 3) 経営の継承に向け、経営状況聞き取りと継承計画作成の支援を行った。また、一法人については法人連携による経営継承に向けた支援を行った。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### 1) 地域の担い手となる組織経営体の育成

R4年度に2件、R5年度に1件((農)毛馬内ファーム)法人化支援を行ったほか、個人経営からの法人化を2件支援した。

R5年度から高収益品目としてばれいしょ試作に取り組んだ(農)毛馬内ファームを支援。R6にはばれいしょの植え付けや中耕管理の際に農機メーカーの協力を得て実演会を実施。そのほか県外での先進地視察などを行った。

## 2) 農業法人の経営力強化支援、農業経営の合理化、省力化に取り組む経営体支援

法人連携や経営力強化に係る研修会の開催したほか、専門家派遣実績は法人2件(税理士、中小企業診断士)、担い手農家1件2回(税理士)で、相談内容は経営相談や財産管理・譲渡、運営方針などであった。

R5～6年度にかけて、プロ経営体育成事業で中小企業診断士を(有)八幡平地域経営公社に派遣した。R5年中に経営や労務管理上の改善項目等を多岐に渡って洗い出し、アクションプランを作成し、R6年はチェック表によりアクションプランに基づく改善活動を実施した。

1 法人へのトヨタ式の現場改善に取り組んだ結果、ネギの生産性が向上した。

## 3) 農業法人の経営継承

後継者難でR4から本格的に継承先を探していた(農)高屋は、R5に新規立ち上げ法人である(同)トライズとの連携が決定した。



ばれいしょ先進地視察



ネギ調製作業現場

## 4. 農家等からの評価・コメント（鹿角市A法人）

アグリノートの活用によっては場管理能力向上のためのデータ管理の重要性を認識した、まだ十分な使いこなしまではできていないものの、今後の活用によって効率化を目指したい。

## 5. 普及指導員のコメント（鹿角地域振興局 チームリーダー 本田）

- 1) 毛馬内地区のばれいしょ栽培の中核となる、(農)毛馬内ファームの試作は課題がありつつも進展している。今後は基盤整備計画の目標面積達成を目指し、より大規模な栽培に対応した体制の構築に向かうこととなる。
- 2) 法人の経営課題は、具体的に把握している法人もあるが、漠然とした捉え方で留まり、具体的な活動につながっていない法人も見られる。市町等と連携し、ニーズの掘り起こしを進める必要があると感じている。また、管内の法人においてはドローンの導入に始まり、自動操舵システムや営農管理システムなど、スマート農業に触れる機会も増え、導入も進みつつある。
- 3) 管内においても後継不在の法人が見られる。後継者確保や、合併・統合、あるいは構成員に負担の無い廃業など、具体的な将来計画の作成に向けた

支援が必要になってきていると感じている。

## 6. 現状・今後の展開等

- 1) 基盤整備予定地区は地域内でまとまりきっていないところもあり、法人化や営農計画作成も状況に合わせて進める必要がある。
- 2) 法人化後も、集落的営農から進めていない場合がある。また、高齢化と後継不在、人手不足で、営農継続に危機感を持つ法人は増えている。後継者確保や継承と併せ、法人と地域営農のあり方について具体的ビジョンを持てるよう支援活動を進める必要がある。
- 3) 新しいシステム・技術の導入により、より効率的な営農が実現できる下地が整ってきているが、導入法人の拡大と併せて、有効活用に向けた指導支援が今後も必要である。